

本支店会計 第3問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 支店の損益勘定の借方合計は¥1,800,000、貸方合計は¥2,300,000であった。支店の損益勘定を締切る際の支店側の仕訳を行いなさい。
2. 1.について、本店側の仕訳を行いなさい。なお当社は、会社全体の利益を計算するために総合損益勘定を用いている。
3. 本店の損益勘定の借方合計は¥5,200,000、貸方合計は¥6,700,000であった。本店の損益勘定を締切る仕訳を行いなさい。なお当社は、会社全体の利益を計算するために総合損益勘定を用いている。
4. 本店と支店の利益を総合損益勘定に振り替えた結果、総合損益勘定の貸方残高は¥2,000,000となっている。法人税等の税率を40%として、法人税等を計上する仕訳を行いなさい。
5. 法人税等を計上した結果、総合損益勘定の貸方残高は¥1,200,000となった。総合損益勘定を締切るための仕訳を行いなさい。
6. 支店の損益勘定の借方合計は¥2,700,000、貸方合計は¥3,000,000であった。支店の損益勘定を締切る際の支店側の仕訳を行いなさい。
7. 6.について、本店側の仕訳を行いなさい。なお当社は、会社全体の利益を本店の損益勘定上で計算している。
8. 本店の損益勘定の借方合計は¥3,500,000、貸方合計は¥4,200,000であった。本店の損益勘定を締切る仕訳を行いなさい。なお当社は、会社全体の利益を本店の損益勘定上で計算している。
9. 本店の損益勘定の貸方残高は¥1,000,000となっている。法人税等の税率を40%として、法人税等を計上する仕訳を行いなさい。
10. 法人税等を計上した結果、本店の損益勘定の貸方残高は¥600,000となった。本店の損益勘定を締切るための仕訳を行いなさい。

本支店会計 第3問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	損 益	500,000	本 店	500,000
2	支 店	500,000	総 合 損 益	500,000
3	損 益	1,500,000	総 合 損 益	1,500,000
4	法人税、住民税及び事業税	800,000	未 払 法 人 税 等	800,000
5	総 合 損 益	1,200,000	繰 越 利 益 剰 余 金	1,200,000
6	損 益	300,000	本 店	300,000
7	支 店	300,000	損 益	300,000
8	損 益	700,000	繰 越 利 益 剰 余 金	700,000
9	法人税、住民税及び事業税	400,000	未 払 法 人 税 等	400,000
10	損 益	600,000	繰 越 利 益 剰 余 金	600,000

【解説】

1. $¥2,300,000 - ¥1,800,000 = ¥500,000$
3. $¥6,700,000 - ¥5,200,000 = ¥1,500,000$
4. $¥2,000,000 \times 40\% = ¥800,000$
6. $¥3,000,000 - ¥2,700,000 = ¥300,000$
8. $¥4,200,000 - ¥3,500,000 = ¥700,000$
9. $¥1,000,000 \times 40\% = ¥400,000$